

## 小林聡美

## 森下圭子

(フィンランド在住コディネーター)

映画「かもめ食堂」で一緒に仕事を  
した、フィンランド在住十六年の  
森下さん。彼女の三週間の来日  
に合わせ、葛飾柴又を共に散歩し  
ました。柴又といえば、小林さん  
のほとんど地元。五月というのに  
三十度を超える猛暑の中、話題は  
「寅さん」からフィンランドの結婚  
制度、小林聡美世界の旅計画ま  
で、尽きることはないのです。

撮影 小嶋淑子



矢切の渡し渡ったら、もう千葉。

(上野発、高砂行き京成線の車内は、平日のお昼前という時間帯のせいかな、がら空き。常に元気で明るく、声の大きい森下さん、車内で素敵な帽子を被った初老の男性たちを発見し、声をひそめて)

森下 いい味出しますね。ご挨拶に伺いたい感じが。小林 森下さんはすぐ、誰とでもお近づきになっちゃうから。

森下 小林さん、下町に住んで、中学生くらいいるときには結構原宿とか行ってたんですか？

小林 どうかなあ、行ってたかな。中学生後半くらい。

森下 小学生のときは。

小林 小学生のときは、もう上野ですよ。アブアブとか、誰も知らないよねー。まだある？ どのようなかな？

森下 え、アブアブって？

小林 なんかファッションビルみたいな。修学旅行の洋服とか買いに行つて。でも、丸井ができて……

丸井ができた頃から上野あんまり行かなくなった。

森下 小林さん、高校はこのへんだっただんですか？

小林 高校は江戸川区ですよ。

森下 金八先生みたいな？

小林 あれは荒川だから(笑)。こっちは江戸川、もう、ほとんど千葉。矢切の渡し渡ったら、もう千葉。

森下 矢切の渡し、楽しみですねー。

小林 渡る時間は、もう数分。たいした距離じゃないですよ。

(隅田川を通過して)

森下 あ、あれ矢切の渡し？

小林 違うよ、屋形船じゃない？ 矢切の渡し、あんな立派なものじゃないから。もう、ボート。もつとちっちゃい。半分沈んでるってイメージが私の中にある。

(編集がガイドブックの矢切の渡しのページを見せて)

小林 あれー、こんなおっきいんだー。こんなにおっきかった？

森下 観光っぽくなってるのかもしれないですねー。

小林 あ、ほら昔の写真。ポートでしょう。沈みそ  
うでしょう。

森下 昔からあつたんですね、矢切の渡し。

小林 矢切ってなんなんだろう？

森下 ねえ、なんなんですか？

小林 なんだろう？

(次は青砥、青砥——)

小林 え、もう青砥？ 近いんだね。子どものとき  
はすごく遠く感じた。あ、これ中川です、中川。

森下 中川って言われても全然イメージわからない。

小林 新中川と中川がある。隅田川、荒川、中川と  
越えて江戸川になるんです。

森下 あ、中川も立派な川なんですネ。

小林 そうですよー。あ、高砂。ホームタウン！

こんなですわ……。ここで乗り換えるんだよね、直  
行じゃないんだ。あ、ほらここからも中川見える、  
立派でしょ(笑)、高砂橋。

(高砂駅到着。東京とは思えない、のどかなローカ  
ル色漂うホームに二人降りたつ)

小林 うわあ、のどかやねえ。どうしよう、母親と

まで一本だし。

森下 あー、じゃあ歌舞伎見に行くときとか便利。

小林 そうそう、もうないけど。閉まっちゃったね。

森下 あれ、いつ閉めたの？

小林 四月いっぱい。

金のうんこ、こちらです。

(柴又駅到着。森下さん、ホームに貼られた演劇の  
ポスターに、懐かしい名前を発見したらしく、突然  
ホームに響き渡る声で爆笑する。改札から駅前に出  
ると、たくさんの観光客が)

小林 着いた、早かった！

森下 もう着きました。

小林 これみんな観光じゃない、ひよつとして。絶  
対そうだよ。すごいねえ。寅さんだねえ。

森下 えー、びっくりしたー。ここは普通の家がこ  
うして建ってるのね。

小林 いきなりありますよ「コーヒースタンドさく  
ら」。しかし、暑いなあ、かき氷日和すなあ。お

かに会ったら、駅で(笑)。いやだなー。

森下 なにやってるの、あなた？ って。

小林 他人のふりしよう。いませんように。

森下 って、思えば思うほど、念が逆に通じちゃう。

小林 あ、スカイライナー。

森下 おお来た！

二人 いったらっしゃいー(スカイライナーに手を  
振る)。

(小林さんが勧めた漢方がよく効いているのか、  
「なんか、漢方飲んでから、いろんなものが出てる」  
とくしゃみを連発して、しきりに洩はなをすす森下さ  
ん。「はい、洩はなかんでください」と小林さんからテ  
ィッシュを差し出され、盛大に洩はなをかむ。そうこう  
しているうちに、柴又行き電車到着)

小林 うわー、この電車古いね。かわいい。

森下 うん、いいですね。懐かしい。

小林 そしてあのパンダ。京成のマスケット？

森下 あ、あの電車もかわいい。京成意外と……。

小林 都営浅草線もつながってるし、品川の方も行  
くし、鮫洲さめずも行くし、意外と便利、京成線。東銀座

つとすごいぞ、観光客が。

(寅さん像前にて)

小林 これ実物大かなあ。

森下 ね、この小ささってなんか……。

小林 おつきいかな、おつきい？ ちよつと。顔が  
大きい気もするし……。こつちが正面？ ……なる  
ほど！ 柴又の方を向いて、行ってくるよおいちゃ  
んって……。この看板も読んでほしいわ、森下さん  
に。

(小林名調子で読み上げる)

『寅さんは、損ばかりしながら生きてる。江戸  
っ子とはそういうものだとして後悔もしていない。  
人一倍他人には親切で家族思いで、金儲けなどは爪  
の垢あかほど考えたことがない。そんな無欲で気持ち  
のいい男なのに、なぜかみんなに馬鹿にされる。も  
う二度と故郷になんか帰るものかと哀しみをこらえ  
て柴又の駅を旅出つことをいったい何十回くり返し  
たことだろう。でも故郷は恋しい。変わることに  
ない愛情で自分を守ってくれる妹のさくらが可哀想で  
ならない。ごめんよさくら、いつかはきつと偉い兄